種彦作
丑の春
全傳
2378
95

遠へ3
2378
95

於梅全傳

高野山万年草紙

全六冊

柳川重五 作

文化十四年
丁丑孟春發
販
柳亭種彦作

樂音樹ハ樂をきゝて枝葉舞。虞美人草ハ虞美人の曲をきゝて二葉あひ招ぐと堂の如し。豈草木情なしといそんや日本高野山中ハ異草あり。あづけて万年草といふ是をもて遠隔の人の生死をトいよ〳〵人の知覚するところ也。昔ハ山足ハ容華絶代の婦人あり。名を於梅といふ。愛童某と通じ。女人堂にて情死を遂同穴の塵とあらんとせし。人あつて死をいたむ。竜猛の壽をまつゝふせ〳〵。その縁故を一條の戯曲ハ綴る。万年草とよびあせるハかの近松翁が草あり。今まこと見ハ倣ひ冊子を編といへど。嗚呼夢と不夢と覚と不覚をいうせん。近松翁大海の永世せば。ゴアハ蚊子の尿あるべし

文化十三年丙子夏六月稿成
文化十四年丁丑春正月發販

柳亭種彦誌

○鳴田汗藏
○靜波嶋太郎景八

富樫の執權
雲笠炭左エ門

五条阪の游君
薄衣太夫

○冨樫左助の
息女梅枝姫
○静波の近臣
鳴田没ミ助

○鳴田の紅葉淀平

○弘法大師の化身高野聖と称して畑六が家に宿して因を説き果を示して一人の女子を授ける

○紀伊国名仲郡の百姓畑六が女房小室

二之巻

むかしく紀伊国（きいのくに）あぐさ郡（ごほり）かくやつ……

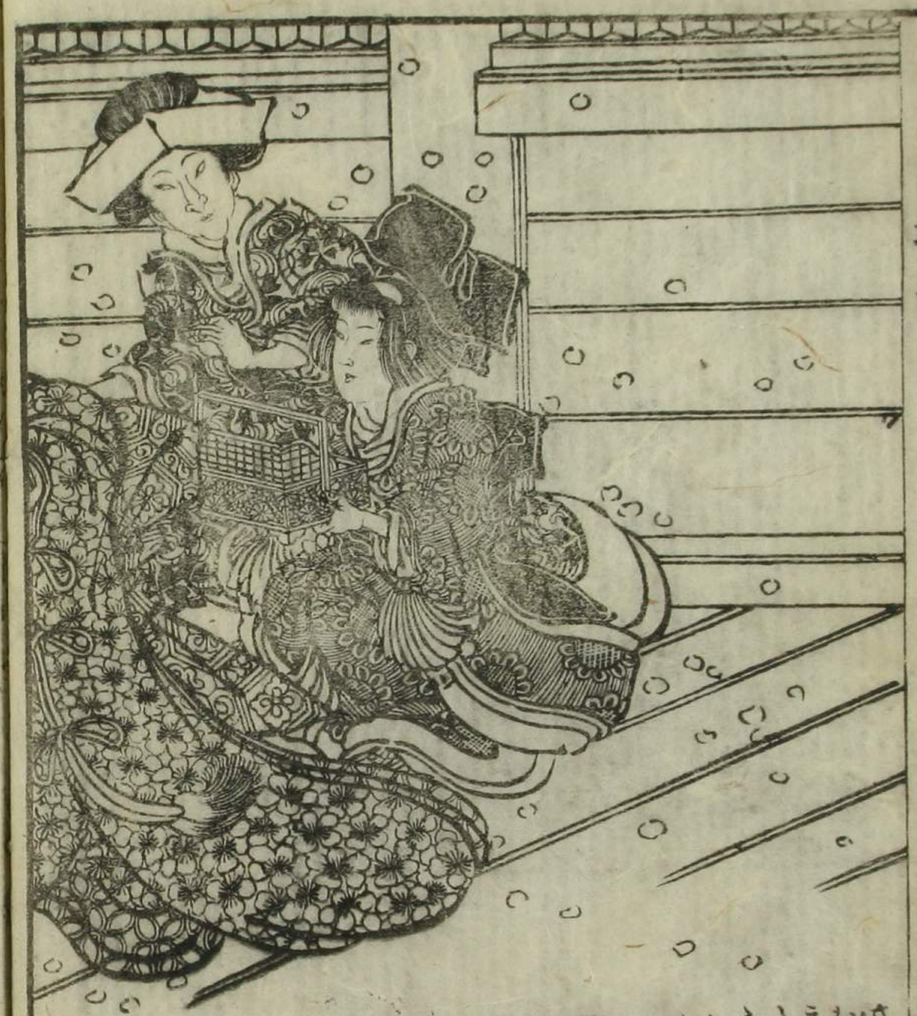
[illegible]

高野山（かうやさん）……

[illegible]

本文のとおり

三之巻



此日あざらのそくすへ
むめがえんひめふも
きまるうでくまるで
ままひんらんせおんを
ふーあがくおりーろる
がくらさがるるんこー
りこぎもわさりふ
えりーがくとゆひ
さー
あれこそハあるがこ
のおひみづけあそ
んがー　ふかちられ
のこちーうりんもの助
がとがさ衣と人の
うつきまきてこるが
うつ巳のそうがさや
いつとさくよう
むりがえんひめそのの
がくこれへとちゃと
おろさせ祝さまげ
ふりちるがめ
ヨーふがーいれ
えんいんもをきさ
のてうあひふりさ
ゆへときーしふ
こがらぬふんまを

えもでぬさえよろ
おつーふふーれ
えろるるふもちる
むろがえがひ
のがうえの
くーの和今ふ
おりひをーさん
とえるのえんを
まあどくーき
えろーさーふ
むめのうちふ
ゑーさーこーう
めさらあがり
がしーろう
ぬーころうて
えのをうさ衣
のむをふー
あて塩ろうふ
おちーーを
づちーろう
むげ
をがふをうん
ともーさ人バ
こーとろーさ
ゑんどえふる
まひと

つぎへ

月下老人
奉納
奉納

他家無類
神秘五疝散
一名きの丸妙薬
壹貼代七拾貫銅

世の中に数多きの妙薬多しといへども即効霊験ある事有之候
家伝秘法の良剤故夏有之候
病ハ偽壹ヘ
次第也抑此五疝散と名付し訳ハ
男女下部の病疝ハ用て功験神
速に治るなり
本家調合所　奥州仙臺　高安平七製
江戸出店　本町壹丁目　義屋七郎兵衛
毎月八日朝四時迄救のため施薬仕る
黄弘所　銀町二丁目　若狭屋喜三郎

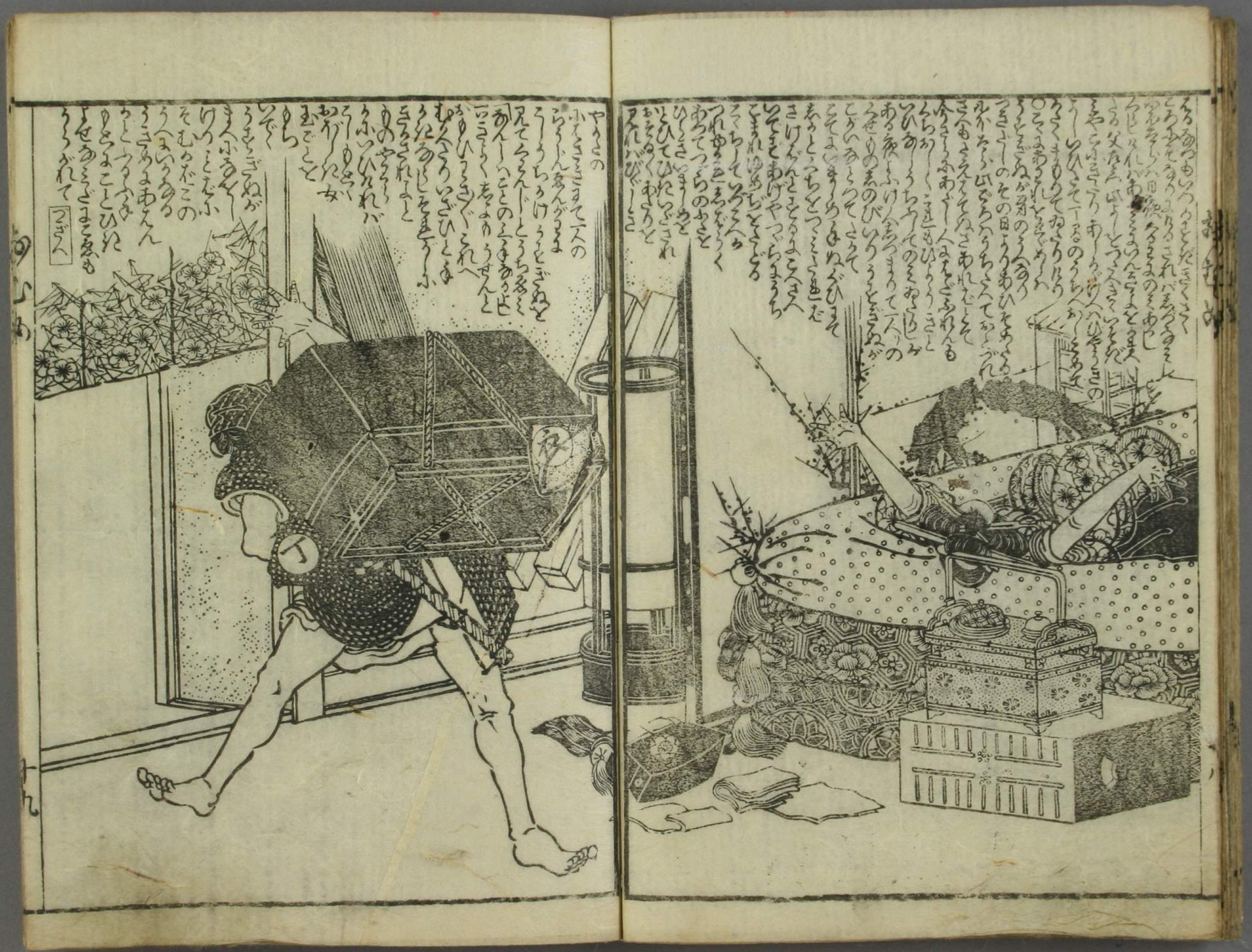
柳亭主人作
文化十四歳
後ろ姿
美けの粉雪

後編

栁川亜信画
栁亭種彦作

浮
栄
雪

白
伊



やうさの
小てさきさて一人の
らうぶんをんがうま
うちろうけうとぎぬと
見てらえんーとうちをく
あんーいことのこまあうど
ぶこうく　ちよりうぜんと
ちもひうきぐこれへ
むんこういごひとま
ろにあのしそまうふ
ぎうきれまと
ものやうこ
ふつひれば
うりもさが
あかりれか
ぎこと
もち
いそぐ
うまもごぬが
まふまんく
けりことたふ
そむかだこの
うへまいうろ
うこさあうまあえん
うとーうふは
ものまこことひれ
ぎせあこごまこあも
うこぶれて

つぎへ

梅
仁

五之巻

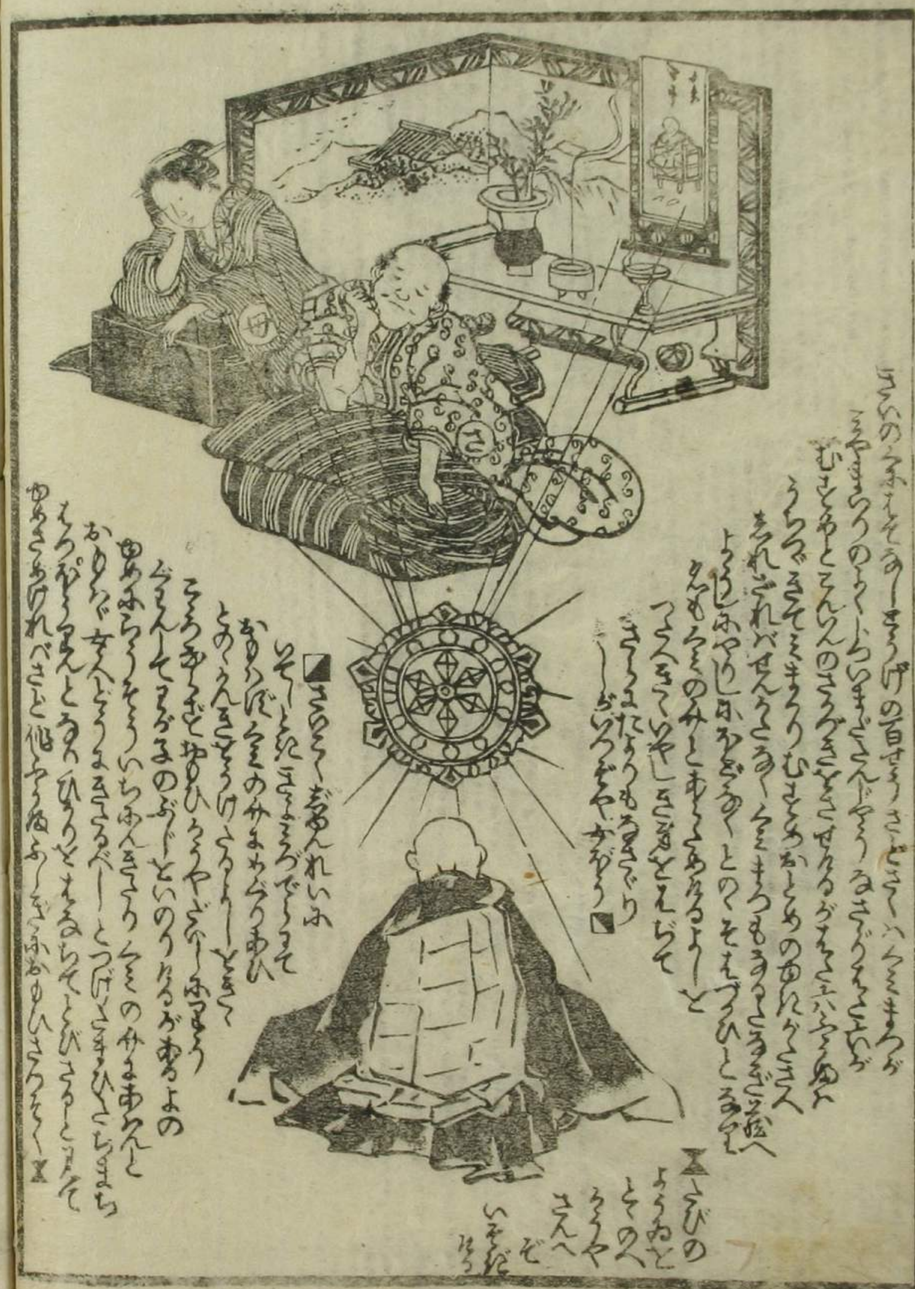
雪

浮

泽

泽
納
素

雪
浮



衣
梅
汲

清
梅
松

竹
止
汲

柳亭種彦作

栁川重信画

文化十丑丁　岩春新板目録

百物語長者萬燈　全六冊　曲亭馬琴著　勝川春亭画

於梅全傳　高野山万年草紙　全六冊　栁亭種彦著　栁川重信画

梶原源太　白藤源太　繻分浪花稲枝　全六冊　東里山人作　歌川美丸画

出島屋於夏　深尾清十郎　魁對盆　全三冊　歌川國信画作

一名八百屋お七　於拳通酒戯　全二冊　一の亭兎狐作　歌川國信画

裏洛衣染分模様　福亭三笑作　勝川春亭画　全三冊

地本問屋　岩戸屋喜三郎